

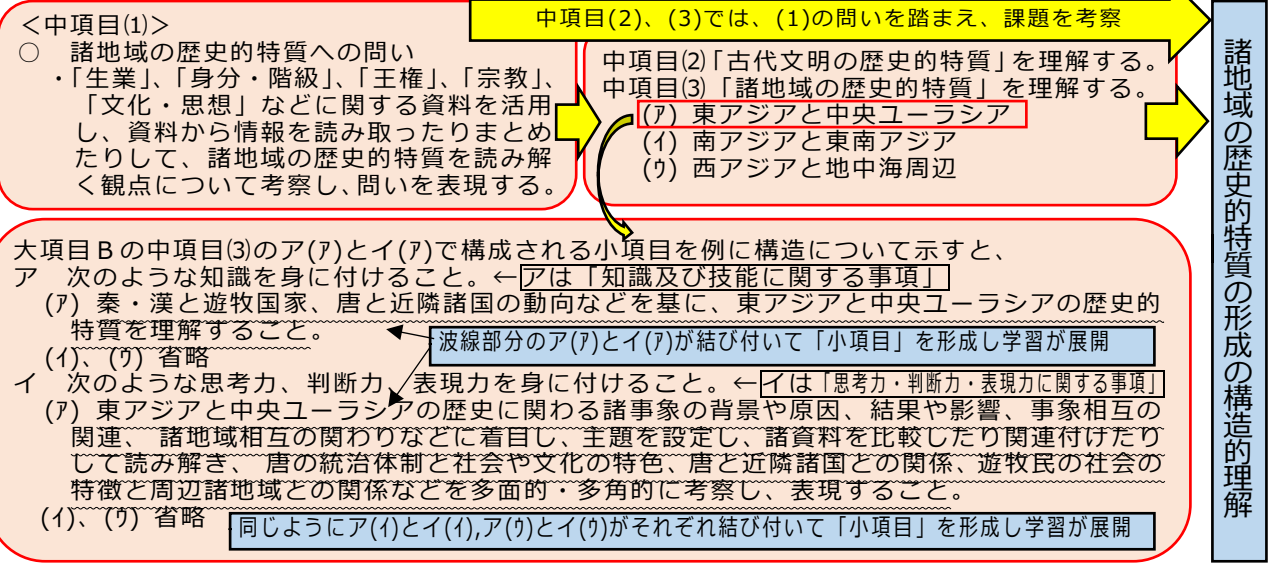
# 「世界史探究」のトリセツ

## 1 世界史探究の構造 ※ A～E の5つの大項目で構成

歴史総合で学習した歴史の学び方を活用	<b>A 世界史へのまなざし</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ (1)では、地球の誕生以降の歴史における人類の歴史の位置と特性を考察・表現し、人類の歴史と地球環境との関わりを理解</li> <li>○ (2)では、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察・表現し、日常生活と世界の歴史とのつながりを理解</li> </ul>	導入 歴史の大きな枠組みと展開の理解 探究
	<b>B 諸地域の歴史的特質の形成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ B～Dは、諸地域を軸にして、</li> <li>・大項目Bは歴史的に形成された諸地域の多様性を読み解き、諸地域の歴史的特質の形成を、</li> <li>・大項目Cは諸地域の複合的・重層的なつながりを読み解き、諸地域の交流・再編を、</li> <li>・大項目Dは地球規模での一体化と相互依存のさらなる強まりを読み解き、諸地域の結合・変容を、<b>構造的に理解</b>することをねらいとしている。</li> <li>○ (1)では、諸資料を活用し、「諸地域の歴史的特質の形成」、「諸地域の交流・再編」「諸地域の結合・変容」のそれぞれを読み解く観点について考察し、生徒が問いを表現する。</li> <li>○ (2)～(4)では、</li> <li>・(1)の問いを踏まえ、①主題を設定する。その後、②主題に基づいた課題(問い)を設定し、③資料を活用して課題(問い)を考察、理解に至る。</li> <li>・課題(問い)については、中項目全体に関わる課題(問い)を設定し、中項目のねらいに即した授業になるよう、「推移や展開を考察するための課題(問い)」や「事象を比較し関連付けて考察するための課題(問い)」を各次で設定し、諸資料を比較・関連付けて読み解き、多面的・多角的に考察・表現し、中項目のねらいを達成する。</li> </ul>	
	<b>C 諸地域の交流・再編</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ (1)諸地域への交流・再編への問い</li> <li>(2)結びつくユーラシアと諸地域</li> <li>(3)アジア諸地域とヨーロッパの再編</li> </ul>	
	<b>D 諸地域の結合・変容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)諸地域の結合・変容への問い</li> <li>(2)世界市場の形成と諸地域の結合</li> <li>(3)帝国主義とナショナリズムの高揚</li> <li>(4)第二次世界大戦と諸地域の変容</li> </ul>	
	<b>E 地球世界の課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ (1)～(3)では、<b>主題を基にした中項目全体に関わる問いを踏まえ</b>、諸資料を活用して考察・表現し、(1)では「紛争解決の取組と課題」、(2)では「格差是正の取組と課題」、(3)では「知識基盤社会の展開と課題」を理解できるようにする。</li> <li>○ (4)では、①紛争の解決や共生、②経済格差の是正や経済発展、③科学技術の発展や文化の変容から生徒が主題を設定し、探究活動の見通し→資料の活用→地球世界の課題の把握→予想(仮説)→考察・構想→発表・討論する探究活動を行う。</li> </ul>	
<b>(4)地球世界の課題の探究</b>			

- ※<sub>1</sub> A～Eの大項目はそれぞれが一つの学習のまとまりであると同時に、相互に関連性をもっており、この順序で学習をすること。
- ※<sub>2</sub> 科目全体のまとまりとなっている大項目E(4)の学習が充実するように、A～D、E(1)から(3)の内容のつながりに留意した指導計画及び年間指導計画を作成すること。

## 2 世界史探究の大項目B～Dの構造 (大項目B「諸地域の歴史的特質の形成」を例に)



## 3 世界史探究の大項目B～Dの授業の進め方 (大項目B「諸地域の歴史的特質の形成」を例に)

(1)で大項目の見通しを立てる	中項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「生業」、「身分・階級」、「王権」、「宗教」、「文化・思想」などに関する資料を用意</li> <li>②例えば、教師が「支配者としての王の在り方や国内の統治手段、外交手段は、地域によってどのような違いがあり、それは何と関係するだろうか」と問いかけ、用意した資料から、生徒が諸地域の歴史的特質を読み取り考察し、古代文明や諸地域の歴史的特質を構造的に捉え、問いを表現する。</li> <li>③表現した問いについて生徒が予想や仮説を考案し、解決の見通しをもたせる。 ※生徒の考察状況に即して、歴史の理解が深まるような適切な問いを新たに練り直すような学習活動も段階的に行うことも有効</li> </ul>
	(1) 諸地域の歴史的特質への問い	<ul style="list-style-type: none"> <li>①(1)で考察した観点(上記①の「<u>          </u>」)を抛り所に、(2)、(3)の主題をそれぞれ設定する。</li> <li>②設定した主題に基づき、(2)、(3)全体に関わる問いをそれぞれ設定する。 【例】・(3)「世界の各地で宗教や文化がどのように成長し、それらの特徴とする地域がどのように生まれたのだろうか」</li> <li>③小項目全体に関わる問いを設定する。(B(2)は、小項目は(ア)の1つのみ) 【例】・中項目(3)(ア)「東アジアや中央ユーラシアは、社会、宗教、文化・思想の面でどのような特徴をもっていたのだろうか」</li> <li>④問いに関する諸資料を用意し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し、問いの解を表現して、理解と定着を図る。</li> </ul>
	(2) 古代文明の歴史的特質 (3) 諸地域の歴史的特質	

「世界史探究」は、詳細で専門的な世界の歴史を学ばせようとするものではありません。地球世界の課題をその解決を視野に、主体的に探究する力を育成することを目指した科目です。この学習で重要なのは第1に「課題(問い)の設定」であり、第2に「課題(問い)の追究」を促す資料の活用です。  
 (問いの例)「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説」地理歴史編 p281～p284 参照